

CA ARCserve® Backup for Windows

Image Option ユーザ ガイド

r12



本書及び関連するソフトウェア ヘルプ プログラム(以下「本書」と総称)は、ユーザへの情報提供のみを目的とし、CA はその内容を予告なく変更、撤回することがあります。

CA の事前の書面による承諾を受けずに本書の全部または一部を複製、譲渡、変更、開示、修正、複製することはできません。本書は、CA または CA Inc. が権利を有する秘密情報でかつ財産的価値のある情報で、アメリカ合衆国及び日本国の著作権法並びに国際条約により保護されています。

上記にかかわらず、ライセンスを受けたユーザは、社内で使用する場合に限り本書の合理的な範囲内の部数のコピーを作成でき、またバックアップおよび災害復旧目的に限り合理的な範囲内で関連するソフトウェアのコピーを一部作成できます。ただし CA のすべての著作権表示およびその説明を各コピーに添付することを条件とします。

ユーザの認可を受け、プロダクトのライセンス条項を遵守する、従業員、法律顧問、および代理人のみがかかるコピーを利用することを許可されます。

本書のコピーを印刷し、関連するソフトウェアのコピーを作成する上記の権利は、プロダクトに適用されるライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、そのライセンスが終了した場合には、ユーザは CA に本書の全部または一部を複製したコピーを CA に返却したか、または破棄したことを文書で証明する責任を負います。

該当するライセンス契約書に記載されている場合を除き、準拠法により認められる限り、CA は本書を現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対する不侵害についての黙示の保証を含むいかなる保証もしません。また、本書の使用が直接または間接に起因し、逸失利益、業務の中断、営業権の喪失、情報の損失等いかなる損害が発生しても、CA はユーザまたは第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害について明示に通告されていた場合も同様とします。

本書及び本書に記載されたプロダクトは、該当するエンドユーザ ライセンス契約書に従い使用されるものです。

本書の制作者は CA および CA Inc. です。

「制限された権利」のもとでの提供:アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212, 52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、及び、DFARS Section 252.227-7014(b)(3)または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

本書に記載された全ての商標、商号、サービスマークおよびロゴは、それぞれの各社に帰属します。

Copyright © 2008 CA. All rights reserved.

CA 製品の参照

このマニュアル セットは、以下の CA 製品を参照します。

- Advantage™ Ingres®
- BrightStor® ARCserve® Backup for Laptops and Desktops
- BrightStor® CA-1® Tape Management
- BrightStor® CA-Dynam®/B Backup for VM
- BrightStor® CA-Dynam®/TLMS Tape Management
- BrightStor® CA-Vtape™ Virtual Tape System
- BrightStor® Enterprise Backup
- BrightStor® High Availability
- BrightStor® Storage Resource Manager
- BrightStor® VM:Tape®
- CA ARCserve® Backup Agent for Novell Open Enterprise Server for Linux
- CA ARCserve® Backup Agent for Open Files on NetWare
- CA ARCserve® Backup Agent for Open Files on Windows
- CA ARCserve® Backup Client Agent for FreeBSD
- CA ARCserve® Backup Client Agent for Linux
- CA ARCserve® Backup Client Agent for Mainframe Linux
- CA ARCserve® Backup Client Agent for NetWare
- CA ARCserve® Backup Client Agent for UNIX
- CA ARCserve® Backup Client Agent for Windows
- CA ARCserve® Backup Enterprise Option for AS/400
- CA ARCserve® Backup Enterprise Option for Open VMS
- CA ARCserve® Backup for Windows
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for IBM Informix
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Lotus Domino
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Microsoft Data Protection Manager
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Microsoft Exchange
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Microsoft SharePoint

- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Microsoft SQL Server
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Oracle
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Sybase
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for VMware
- CA ARCserve® Backup for Windows Disaster Recovery Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Disk to Disk to Tape Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Enterprise Module
- CA ARCserve® Backup for Windows Enterprise Option for IBM 3494
- CA ARCserve® Backup for Windows Enterprise Option for SAP R/3 for Oracle
- CA ARCserve® Backup for Windows Enterprise Option for StorageTek ACSLS
- CA ARCserve® Backup for Windows Image Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Microsoft Volume Shadow Copy Service
- CA ARCserve® Backup for Windows NDMP NAS Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Serverless Backup Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Storage Area Network (SAN) Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Tape Library Option
- CA XOSoft™ Assured Recovery™
- CA XOSoft™
- Common Services™
- eTrust® Antivirus
- eTrust® Firewall
- Unicenter® Network and Systems Management
- Unicenter® Software Delivery
- Unicenter® VM:Operator®

テクニカル サポートの連絡先

オンライン テクニカル サポートの詳細については、弊社テクニカル サポートの Web サイト(<http://www.ca.com/jp/support/>)を参照してください。

目次

第 1 章: オプションの紹介	7
Image Option を使用する利点	7
オプションの動作	8
スナップショット機能	10
第 2 章: オプションのインストール	11
インストールの前提条件	11
ライセンス登録	11
インストールの手順	12
インストールの完了	12
第 3 章: オプションの使用法	13
一般的な考慮事項	13
バックアップ マネージャを使用したバックアップ ジョブの定義	13
ジョブ ステータスの表示	18
リストア方式	20
ドライブのリストア	21
個々のファイルを選択してリストアする	21
付録 A: トラブルシューティング	23
トラブルシューティングのヒント	23
索引	25

第 1 章：オプションの紹介

CA ARCserve Backup は、アプリケーション、データベース、分散サーバ、およびファイル システム向けの分散的で包括的なストレージ ソリューションです。データベース、ビジネスクリティカルなアプリケーション、およびネットワーク クライアントにバックアップ機能およびリストア機能を提供します。

CA ARCserve Backup が提供するオプションの 1 つが、CA ARCserve Backup Image Option です。Image Option では、ファイル システムを介さず高速にバックアップを行うことができます。この方法では、ディスクからデータ ブロックを読み取ってドライブのスナップショット イメージを作成します。この方法では、ドライブ全体を 1 つの大きなファイルとみなします。旧来のファイル単位でファイル システム全体をトラバースするといった時間がかかる処理を置き換えることができます。

このマニュアルでは、CA ARCserve Backup Image Option のインストール、設定、およびトラブルシューティングについて説明します。この章では、CA ARCserve Backup Image Option のテクノロジーの特徴と機能、および動作要件について説明します。

ドライブ全体をバックアップする必要があるりますが、リストア時にはドライブ全体または個々のファイルを選択できます。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[Image Optionを使用する利点](#) (7 ページ)
[オプションの動作](#) (8 ページ)

Image Option を使用する利点

CA ARCserve Backup Image Option には以下の利点があります。

- パフォーマンスを最適化するファイル スキャン機能があります。スキャン処理によりドライブがスキャンされ、すべてのファイルから必要な情報が収集されます。この情報に基づき、バックアップおよびリストアのパフォーマンスが最適化されます。
- 最適化されたイメージ ドライブ レベルのバックアップおよびリストア。ドライブ レベルでバックアップおよびリストアを行う際、処理を最適化するためにファイル システムをバイパスします。
- デバイスを問わない。メディア デバイス、メディア ライブラリ、メディア RAID デバイスなど、CA ARCserve Backup がサポートするすべてのデバイスに書き込むことができます。

- ファイル単位、またはドライブ全体のリストア。ファイル単位およびドライブ単位で、データをリストアできます。
- Windows NT ファイル システム (NTFS) とファイル アロケーション テーブル (FAT) ファイル システムの両方をバックアップできます。また、NTFS 上の圧縮または暗号化されたファイル、ディレクトリ、およびドライブをバックアップできます。
- ファイルの名前、サイズ、日付、およびセキュリティなど、すべてのファイル情報を保持します。

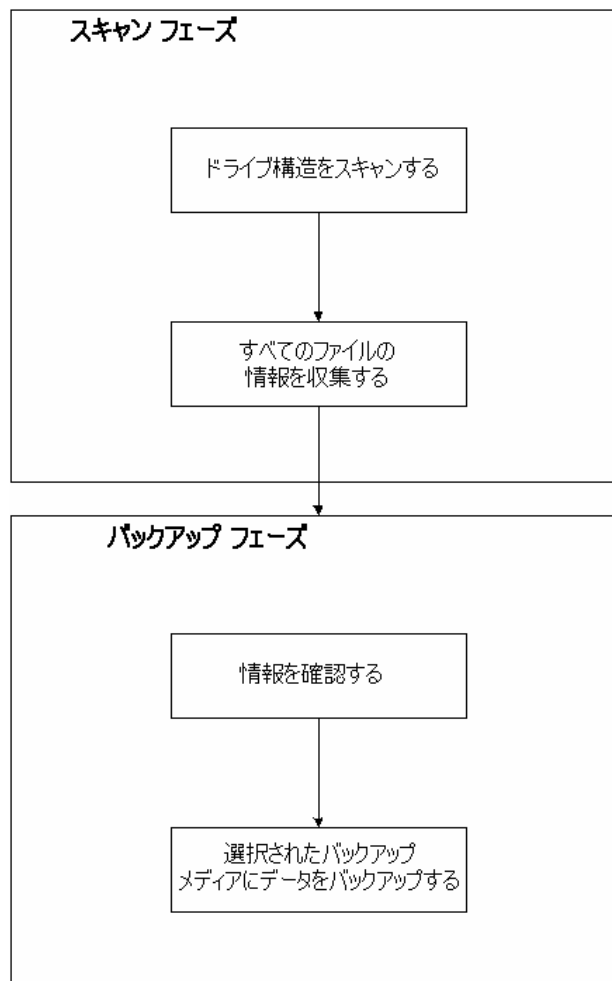
オプションの動作

CA ARCserve Backup Image Option では、バックアップが 2 つの段階で実行されます。

1. スキャン フェーズ - このフェーズでは、CA ARCserve Backup Image Option によりドライブ内のすべてのファイルに関する情報が収集されます。収集される情報は、ファイル名、ファイル サイズ、日付、時刻、属性、そのファイルに使用されているクラスタ、ファイル セキュリティ属性、およびその他のバックアップ フェーズでのファイルのバックアップに必要な情報です。

FAT/FAT32 であれば、ファイルのスキャンは常に有効です。NTFS のファイルのスキャンは、CA ARCserve Backup Image Option のディスプレイまたはウィザードで [ファイル レベルのリストアを有効にする] を選択した場合にのみ実行されます。それ以外の場合でも、バックアップ対象となるドライブの使用領域を検出するために、最低限のドライブ スキャンは実行されます。

- バックアップ フェーズ - このフェーズでは、ドライブがバックアップされます。スキャン フェーズで収集された情報は、CA ARCserve Backup Image Option バックアップ エンジンにより調査され、可能なかぎり迅速にバックアップ メディアにストリーミングされます。



スナップショット機能

CA ARCserve Backup Image Option を利用すると、バックアップ対象パーティションのある時点でのスナップショットを取得してバックアップできます。バックアップ処理から見るとドライブは特定の時刻にフリーズされたように見えますが、他のアプリケーションからは通常の状態に見えます。これにより、他のアプリケーションから、そのパーティションへの読み取りおよび書き込みリクエストを送り続けることが可能です。Image Option をインストールすると、スナップショット機能は自動的にインストールされます。

スナップショット機能には以下の利点があります。

- バックアップ処理の開始時に、バックアップ対象ドライブがロックされません。
- バックアップの実行中にアプリケーションがドライブに書き込みをしても、バックアップデータの整合性が常に保たれます。バックアップ実行中にファイルの書き込みが行われても、バックアップは最後まで続行されます。

第 2 章：オプションのインストール

この章では、CA ARCserve Backup Image Option のインストール方法について説明します。本章の説明は、読者が指定された Windows オペレーティング システムの一般的な特徴と要件、およびこれらのオペレーティング システムの管理者の役割について熟知していることを前提としています。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[インストールの前提条件](#) (11 ページ)

[ライセンス登録](#) (11 ページ)

[インストールの手順](#) (12 ページ)

[インストールの完了](#) (12 ページ)

インストールの前提条件

オプション をインストールする前に、以下のことを確認してください。

- 以下のアプリケーションがインストール済みで、正常に動作している。

- CA ARCserve Backup
- CA ARCserve Backup Enterprise Module

重要： 同じマシン上に、Image Option (CA ARCserve Backup Enterprise Module の一部としてインストール) および CA ARCserve Backup をインストールする必要があります。そのマシンは、ローカル マシンでもリモート マシンでもかまいません。

- システム構成が、このオプションのインストールに必要な最小要件を満たしている。要件の詳細については、Readme ファイルを参照してください。
- このオプションをインストールするコンピュータの管理者権限を持っている。

ライセンス登録

Enterprise Module は Image Option を含めるように拡張されています。CA ARCserve Backup Enterprise Module に Image Option を使用する適切なライセンスがあることを確認します。

ライセンス登録の詳細については、「実装ガイド」を参照してください。

インストールの手順

Image Option のイメージは、Enterprise Module をインストールする際にローカルにインストールされます。このオプションをインストールするには、以下の方法のいずれかを使用します。

- インストール後に、Enterprise Module 環境設定ユーティリティ(EMConfig.exe)を使用してこのオプションをインストールします。
- Enterprise Module をインストールした後、ARCserve ホーム ディレクトリにある EMConfig.exe ユーティリティを実行して Image Option をインストールします。

注: ExConfig.exe ユーティリティは、Windows の[スタート]メニューから([スタート]-[プログラム]-[CA]-[ARCserve Backup]-[Enterprise Module 環境設定])もアクセスできます。

インストール手順が完了したら、指示に従ってコンピュータを再起動します。

インストールの完了

CA ARCserve Backup Image Option を使用する前に以下の 2 つのインストール後の作業を完了する必要があります。

- インストール後、レジストリ キーにドライバがあるかどうかを調べて、CA ARCserve Backup Image Option のドライバが正常にロードされていることを確認します。レジストリ キーは、たとえば、次の場所にあります。

HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\hbmnt

- 再起動後、Windows のイベント ビューアを調べて、HBMNT5.SYS というドライバが正常にロードされていることを確認します。このドライバは、次の場所にインストールされています。

[System Root]\System32\drivers\hbmnt5.sys

第 3 章：オプションの使用法

この章では、CA ARCserve Backup Image Option の使用法について説明します。バックアップ マネージャを使用してバックアップを設定する方法、およびデータのリストア方法を説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[一般的な考慮事項 \(13 ページ\)](#)

[バックアップ マネージャを使用したバックアップ ジョブの定義 \(13 ページ\)](#)

[ジョブ ステータスの表示 \(18 ページ\)](#)

[リストア方式 \(20 ページ\)](#)

一般的な考慮事項

バックアップとリストアを正常に実行するためには、以下の点を考慮してください。

- **Image Option** がインストールされているドライブ上に、ある程度の空き領域を確保します。**Image Option** ではパフォーマンスの向上とログのために、一時ファイルをこのドライブ上に作成します。必要となる空き領域は 15~20 MB 程度です。
- **Image Option** では、スナップショット機能を利用できるように、一時ファイルを空き領域の最も大きいローカル ドライブに作成します。この機能を利用するには、上述の 15~20 MB の空き領域以外に、最低 20 MB の空き領域が必要です。
- アクティブなシステム ドライブをリストアする際には、そのドライブに少なくとも 50MB の空き領域が必要となります。この領域は、バックアップおよびリストア時に作成される追加の一時ファイルやレジストリ ファイルを格納するために使用されます。

バックアップ マネージャを使用したバックアップ ジョブの定義

バックアップ マネージャを使用すると、バックアップ ジョブの環境設定およびセットアップができます。

注:

- イメージ バックアップを実行できるのは、CA ARCserve Backup と Image Option の両方がインストールされているマシンのみです。
- パーティションをファイル システム デバイスにバックアップできます。ファイル システム デバイスは、同じパーティション上に配置できますが、他のドライブに十分なディスク領域がない場合はバックアップが失敗する可能性があります。異なるデバイス上にファイル システム デバイスを置くことを推奨します。

バックアップ中には、バックアップ アプリケーションからスナップショット機能に対して、ドライブをフリーズするリクエストが送られます。その後、ドライブが同期化されます。つまり、ドライブへの書き込み待機時間の終了を待機することになります。書き込み非アクティビティ期間が検出されなかった場合、指定時間後に同期処理はタイムアウトになり、フリーズ リクエストは失敗します。非アクティビティ期間とは、ドライブを安全にフリーズできる状態になるまでの間、そのドライブが待機している期間を秒数で表したものです。

SyncTimeout、**InactivityPeriod**、および **PreviewFilename** のデフォルトのレジストリ値を変更するには、以下のキーを作成してから、これらのパラメータの値を設定する必要があります。

`Software\ComputerAssociates\CA ARCserve Backup\Base\TapeEngine\image`

SyncTimeout のデフォルト値は 80 秒です。 **InactivityPeriod** のデフォルト値は 3 秒です。

PreviewFilenameのキーおよび値がレジストリに含まれている場合、プレビュー ファイルの場所はパス名によってわかります。ファイル名が指定されていない場合は、空き領域が最も大きく、バックアップ対象のドライブ上にないボリュームがパス名によって示されます。ドライブが 1 つしかない場合、パス名によってその唯一のドライブが示されます。**PreviewFilename**で 1 つ以上のサブディレクトリが示されている場合、それらのサブディレクトリは自動的に作成されます。

注:ディレクトリの検証は、実行されません。バックアップの実行中に、ディレクトリにアクセスできない場合やディレクトリを作成できない場合(通常はボリュームが無効であることが原因)、バックアップは失敗します。

グローバル バックアップ オプションの暗号化は、サポートされていません。

バックアップ ジョブの設定とセットアップを行う手順を以下に説明します。

バックアップ ジョブの設定およびセットアップの方法

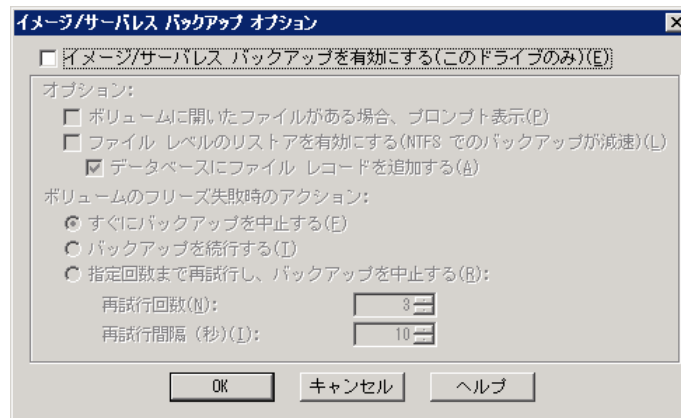
1. [バックアップ マネージャ]を開いて[ソース]タブを選択します。

バックアップ可能なすべてのソースが左側に表示されます。

注: バックアップ マネージャを使用してバックアップを正常に完了するには、バックアップ対象のドライブ全体を選択する必要があります。バックアップ マネージャでは、[バックアップ マネージャ]ダイアログ ボックスの[ソース]タブでドライブを右クリックし、[イメージ オプションの使用]を選択することにより、バックアップ ジョブを設定できます。[デスティネーション]タブでは、バックアップ データの格納場所を指定できます。

2. バックアップ マネージャの[ソース]タブで、コンピュータ ノードを右クリックし、[イメージ/サーバレス バックアップ オプションの使用]を選択します。

以下のダイアログ ボックスが開きます。

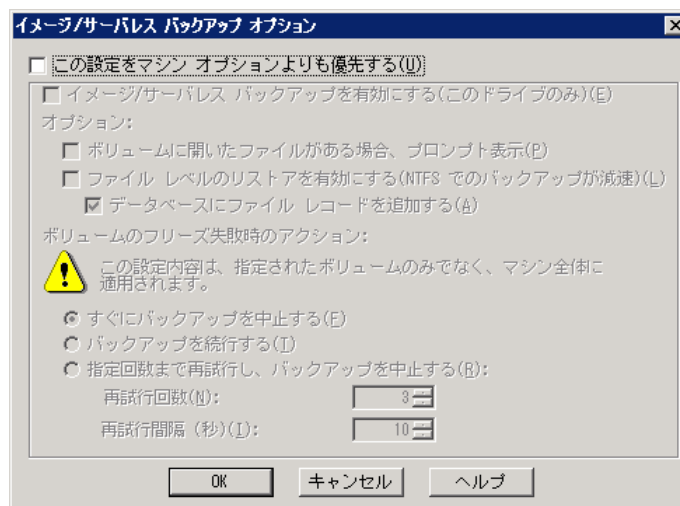


3. [イメージ/サーバレス バックアップを有効にする(このドライブ/ボリューム)]を選択します。

注: このダイアログを使用すると、目的のコンピュータ全体で使用する値を設定できます。

4. 以下のオプションを選択または選択解除します。
 - [ボリュームに開いたファイルがある場合、プロンプト表示] - このオプションを選択した場合、開いた状態にあるファイルが見つかったら、バックアップ ジョブのキャンセルまたは続行を選択する画面が表示されます。
 - [ファイル レベルのリストアを有効にする] - このオプションを選択すると、ボリューム上のファイルを個別にリストアできます。
5. 以下のオプションからいずれか 1 つをクリックして、ボリュームのフリーズに失敗した場合の処理方法を指定します。
 - [すぐにバックアップを中止する] - バックアップ プロセスを停止します。
 - [バックアップを続行する] - バックアップ プロセスを続行します。
 - [指定回数まで再試行し、バックアップを中止する] - 指定した回数のバックアップを試行します。
 - [再試行回数] - バックアップの試行回数を選択します。
 - [再試行間隔 (分)] - バックアップが失敗した場合に次のバックアップ試行まで待機する時間(秒)を指定します。
6. [OK]をクリックします。
7. バックアップ マネージャの[ソース]タブで、ディスク ノードを右クリックし、[イメージ/サーバレス バックアップ オプションの使用]を選択します。

以下のダイアログ ボックスが開きます。



8. [この設定をマシン オプションよりも優先する]を選択し、バックアップに必要なオプションを選択します。このダイアログを使用すると、特定のディスク ドライブまたはボリュームで使用する値を設定できます。
9. 以下のオプションを選択または選択解除します。
 - [ボリュームに開いたファイルがある場合、プロンプト表示] - このオプションを選択した場合、開いた状態にあるファイルが見つかると、バックアップ ジョブのキャンセルまたは続行を選択する画面が表示されます。
 - [ファイル レベルのリストアを有効にする(NTFS でのバックアップが減速)] - ボリュームにファイルを個別にリストアするにはこのオプションを選択します。
10. 以下のオプションからいずれか 1 つをクリックして、ボリュームのフリーズに失敗した場合の処理方法を指定します。
 - [すぐにバックアップを中止する] - バックアップ プロセスを停止します。
 - [バックアップを続行する] - バックアップ プロセスを継続します。
 - [指定回数まで再試行し、バックアップを中止する] - あらかじめ設定された回数、バックアップを継続して試行します。
 - [再試行回数] - バックアップの試行回数を選択します。
 - [再試行間隔(秒)] - バックアップの試行が失敗してから、次の試行までの間隔を分単位で指定します。
11. [OK]をクリックします。

これで、バックアップ マネージャを使用したバックアップ ジョブの設定とセットアップが完了しました。

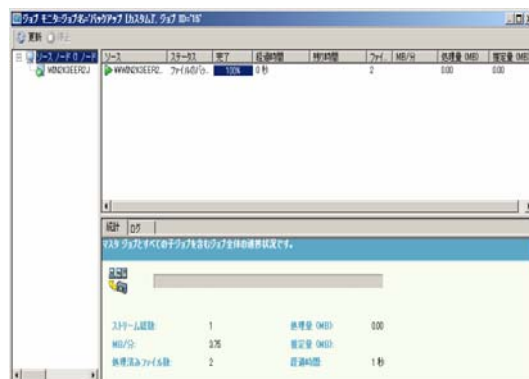
バックアップ マネージャによるバックアップの詳細については、オンライン ヘルプを参照してください。

ジョブ ステータスの表示

サブミットしたイメージ バックアップ ジョブのステータスを[ジョブ ステータス]ウィンドウで確認するには、以下の手順に従います。

1. [ジョブ キュー]タブ上で、ジョブを選択します。
2. そのジョブを右クリックして、コンテキスト メニューから[プロパティ]を選択します。

[ジョブ モニタ]ダイアログ ボックスが表示されます。



[ジョブ モニタ]ダイアログ ボックスに、現在のジョブの属性と、完了した処理のパーセンテージが表示されます。このダイアログ ボックスには、以下の情報も表示されます。

ジョブ名

バックアップまたはリストアなど、実行中のジョブの種類が表示されます。

ソース

バックアップ ソース マシン名、バックアップおよびリストアのサイズ、現在バックアップまたはリストア中のドライブが表示されます。

ステータス

現在のジョブのステータスが表示されます。

ファイル

バックアップまたはリストアされるファイルの総数が表示されます。

[統計]タブには以下の内容が表示されます。

ストリーム総数

バックアップまたはリストア内のストリームの総数が表示されます。

MB/分

バックアップまたはリストアにおいてファイル転送に使用される現在のデータ転送速度が表示されます。

バックアップ済みファイル総数

バックアップ内のファイルの総数が表示されます。

処理量 (MB)

現時点で処理が完了しているメガバイト数が表示されます。

推定量 (MB)

現在のバックアップまたはリストア処理における推定メガバイト数が表示されます。

経過時間

バックアップまたはリストアを開始してから経過した時間(分および秒)が表示されます。

残り時間

バックアップまたはリストアの完了に要する推定残り時間(分および秒)が表示されます。

[ログ]タブには以下の内容が表示されます。

エラー

バックアップまたはリストア処理中に発生したエラーが表示されます。

エラーと警告

バックアップまたはリストア処理中に発生したエラーおよび警告が表示されます。

All

バックアップまたはリストア ジョブの情報が表示されます。

リストア方式

以下の方法を使って、CA ARCserve Backup Image Option を使用してバックアップしたデータをリストアすることができます。

- [イメージ単位] - 1 回の受け渡しでドライブ全体をリストアします。 イメージ/サーバレス モードでのリストアは、処理を最後まで完了させる必要があります。途中で処理をキャンセルすると、リストア対象のドライブの整合性が保てず、アクセス不可になることがあります。
 - イメージ単位のリストアではボリューム全体が対象になります。この方法では、ターゲット ドライブが上書きされます。リストア対象のドライブが正しく選択されていることを確認してください。

重要: [イメージ単位]オプションを使用すると、ドライブが完全に上書きされます。必ず、上書きしても問題がないことを確認してから実行してください。

 - ソースで[イメージ単位]が選択されている場合、デスティネーションで[ファイルを元の場所へリストア]が選択されているときのみ、複数のソースを選択できません。
 - イメージ単位のリストアでは、NTFS ドライブでは 16 KB 以下のアロケーションユニット サイズがサポートされ、正しく機能するには複数のドライブまたはパーティションが必要です。ドライブまたはパーティションが 1 つしか存在しない場合、Image Option は動作しません。
 - イメージ単位のリストアでは、どのリストア オプションを選択したかにかかわらず、リストア処理によって常に既存ファイルが上書きされます。
 - イメージ単位のリストアでは、ネットワーク ドライブにリストアすることはできません。同容量以上のローカル ハード ディスク ドライブが必要です。
 - イメージ単位でのリストア中は、対象ドライブ上のファイルをすべて閉じておく必要があります。Image Option では、リストア処理を開始する前にドライブをロックしようとして、開いているファイルがあるとドライブをロックできないため、リストア ジョブは失敗します。
- [セッション単位] - 個々のファイルやディレクトリを選択してリストアします。ジョブを途中でキャンセルすると、完全にリストアされなかった多くのファイルが対象ドライブに残ってしまう場合があります。

以下のグローバル リストア オプションは、現時点ではサポートされていません。

- [デスティネーション]- ディレクトリ構造および同名のファイルに対する処理
- [操作] - [レジストリ ファイルおよびイベント ログをリストア]
- [ウイルス] - [ウイルス スキャンを実行する]、[スキップ]、[ファイル名の変更]、[削除]

現時点の CA ARCserve Backup Image Option では、[メディア単位]のリストアはサポートされていません。

ドライブのリストア

CA ARCserve Backup では、CA ARCserve Backup Image Option によってバックアップされたドライブ全体をリストアできます。

ドライブのリストア方法

1. リストア マネージャを開きます。
2. [ソース]タブのドロップダウン ボックスで[イメージ単位]オプションを選択します。
3. CA ARCserve Backup Image Option によって実行されたバックアップ セッションを、[ソース]タブで選択します。
4. [実行]ボタンをクリックしてジョブをサブミットします。

個々のファイルを選択してリストアする

CA ARCserve Backup では、CA ARCserve Backup Image Option によってバックアップされた個々のファイルをリストアできます。

ファイル単位でリストアする方法

1. リストア マネージャを開きます。
2. [ソース]タブのドロップダウン メニューで[セッション単位]オプションまたは[ツリー単位]オプションを選択します。
3. CA ARCserve Backup Image Option によって実行されたバックアップ セッションを、[ソース]タブで選択します。
4. [実行]ボタンをクリックしてジョブをサブミットします。

付録 A: トラブルシューティング

この付録では、発生する可能性のある問題の解決に役立つトラブルシューティング情報を紹介します。

問題が発生した場合は、ジョブ ステータス マネージャの[アクティビティ ログ]タブをクリックして、ジョブの状態を確認してください。実行した操作について、タイムスタンプ付きのイベント情報、およびエラーの説明が表示されます。エラーとなったイベントには、「E」で始まるエラー番号が記録されています。たとえば、「E11018」という番号です。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[トラブルシューティングのヒント](#) (23 ページ)

トラブルシューティングのヒント

問題点 - バックアップの際にドライブをフリーズできない。

考え得る原因および解決策 - ドライブ内のデータを使用中の場合、CA ARCserve Backup Image Option でドライブをフリーズできないことがあります。バックアップの際にドライブをフリーズできないと、以下のようなことが起こります。

- ドライブをフリーズすることができず、[ボリュームのフリーズ失敗時のアクション]で[バックアップを続行する]オプションが選択されている場合、Image Option は排他アクセスできるようドライブをロックしようとします。
- ドライブがロックされずにデータに変更が加えられた場合、バックアップされるデータが不整合となり使用できなくなる可能性があります。

以下のような場合、ドライブをロックすることはできません。

- エクスプローラで対象ドライブが展開されている場合 ドライブを展開しないでください。
- コマンド プロンプトでカレント ドライブになっている場合。バックアップ対象のドライブがカレント ドライブになっているコマンド プロンプトを閉じてください。
- 他のアプリケーションがそのドライブのファイルを開いている場合。バックアップ対象のドライブ上のファイルを開く可能性のあるアプリケーションを、すべて閉じてください。

問題点 - バックアップ処理が非常に遅い。

考え得る原因および解決策 - バックアップ処理が遅い場合、最も一般的な原因と解決策は以下のとおりです。

- プロセッサの処理速度が遅い - 古いマシンのプロセッサは処理速度が遅く、バックアップおよびリストアにおいて処理されるデータ量に対処できない場合があります。これは、処理速度の遅いプロセッサが搭載された古いマシンでは当然のことです。最新のマシンを使用している場合は、ハードウェア パフォーマンスを確認し、マシンを再起動してください。
- プロセッサのパフォーマンス低下 - ハードウェア パフォーマンスを確認し、マシンを再起動してください。
- アプリケーションが開いている - 非常に負荷の大きいアプリケーションを実行している可能性があります。バックアップおよびリストア プロセスを開始する前に、アプリケーションをすべて閉じてください。

索引

C

CA ARCserve Backup Image Option
概要 - 7

あ

イメージ単位でリストア - 20
ウイルス スキャン
削除 - 20
実行 - 20
スキップ - 20
名前の変更 - 20
オプションを使用する利点 - 7

さ

最適化されたファイル スキャン - 7
サポートされていないグローバル リストア オプション - 20
ジョブ ステータス - 18
[ジョブ モニタ]ダイアログ ボックス - 18
ジョブ モニタ、表示 - 18
スナップショット機能 - 10
[ソース]タブ
コンピュータ ノード - 13
ディスク ノード - 13

た

ディレクトリ構造 - 20
データのバックアップ
バックアップ マネージャの使用法 - 13
デバイスを問わない - 7
同名のファイルに対する処理 - 20
ドライブ レベルのバックアップおよびリストア - 7
トラブルシューティング - 23

は

バックアップおよびリストアの実行 - 13
バックアップ マネージャ
[ソース]タブ - 13
[デスティネーション]タブ - 13
バックアップ メディアのリストア - 20
ファイル システムのバックアップ - 7

ファイル単位でリストア - 20

ら

リストア
個々のファイル - 21
ドライブ - 21
レジストリ ファイルおよびイベント ログをリストア - 20